



# JETプログラム経験者の活躍 ～ PC としてクリアで活躍中です！～

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

今回は、クリアに勤める JET プログラム経験者の Programme Coordinator (PC) へ、JET プログラムに参加した当時の思い出や、現在の業務などについてインタビューしました。

## プロフィール



**Ian Sacks (イアン・サックス)**  
元 ALT (長野県高森町)  
元 CIR (長野県)  
任用期間: 2017 年～ 2022 年  
出身国: アメリカ  
所属: 研修・カウンセリング課

### Q: JET プログラム参加時の業務は?

最初の3年間は、外国語指導助手 (ALT) として働きました。小中学校3校で教えながら、日本語の勉強に没頭していました。

長野県には、Prefectural Advisor・取りまとめ団体アドバイザー (PA) を現役 JET 参加者から募集する独特な制度がありますので、日本語能力試験1級の資格を取った私は応募し、異動できました。国際交流員 (CIR)-PA として、国際交流イベントの開催や翻訳・通訳、県内の JET 参加者向けの研修会の実施などをしました。

### Q: JET プログラムで印象に残っていることは?

英語のスピーチコンテストのために必死に練習していた生徒が、「英語での頭の回転が遅い」と嘆いていたことが印象に残っています。とても上手に話していましたが、悩んでいたのです。私は自分を責めないようにアドバイスをしました。言葉が出てこないときは必ずありますが、言語学習はくじけずに昨日の自分を超越よう練習を重ね続けるしかありません。浮き沈みがあります。

### Q: 日本で過ごして感じたことは?

日本に来る前、言語によって考え方が大きく変わるという誤った前提を持っていたかもしれません。日本語で読めば読むほど、考えれば考えるほど、それは違うと思うようになりました。文法が全く似ていない英語と日本語のような2つの言語でも、皆は同じようなことに笑い、

小説だと似たような技法を使います。異なる文化や言語を体験すればするほど、このような「普遍的な人間らしさ」ともいえるものに気付かされます。



北海道のある水族館でくつろいでいる

### Q: 現在の業務は?

研修会やオリエンテーションの企画・実行に加え、TEFL と JLPT 助成など、JET 参加者の能力向上に向けた事業を担当しています。

### Q: 今後の目標を教えてください

アメリカでフィクション執筆の修士課程を卒業しましたので、日本語の勉強と組み合わせ、メディア翻訳に挑戦したいと思います。

## プロフィール



**Sarah Chu (サラ・チュウ)**  
元 CIR (岩手県陸前高田市)  
任用期間: 2019 年～ 2022 年  
出身国: シンガポール  
所属: 多文化共生課

### Q: JET プログラム参加時の業務は?

主に翻訳、通訳、陸前高田市とシンガポール共和国の友好関係関連の国際交流事業でのシンガポール人のアテンド、外国人向けの SNS 管理、毎月の陸前高田市の広報誌への執筆などを行っていました。

### Q: JET プログラムで印象に残っていることは?

東日本大震災が10年を迎えた時の海外メディア対応ができたことです。2021年3月11日に向けて国内外から取材の依頼が殺到し、シンガポールで最も読まれている新聞、「ザ・ストレーツ・タイムズ」の取材のための日程調整・通訳を務めました。シンガポール最大の新聞にまで取り上げられ、



SARAH CHU, 25  
Ms. Chu, a Singaporean, has been living in Rikuzentakata  
シンガポールの新聞「ザ・ストレーツ・タイムズ」が取り上げた記事



より多くのシンガポール人が陸前高田市の存在を知りました。陸前高田市が大好きなシンガポール人として、全国民に陸前高田市の情報が届いて非常に嬉しく思いました。

### Q：日本で過ごして感じたことは？

JET プログラムを通して感じたことは、田舎の良さです。シンガポール出身でずっと大都会育ちだったので、初めて陸前高田市に配属されたと聞いた時に、田舎で暮らせるか不安を抱きましたが、3年間住んで、田舎の方が住みやすいと思い始めました。人口が少ない代わりに、自然豊かな環境や絶景に囲まれ、暖かいコミュニティに溶け込む機会が多く、すぐ地元民に受け入れられて、寂しいと思った日々がほとんどなかったです。

### Q：現在の業務は？

自治体や地域国際化協会の多文化共生推進のための施策などを支援しています。主な業務としては、自治体や地域国際化協会向けの、多文化共生関連の研修や見学を企画し開催することと、Facebook や Twitter を利用して情報発信をしています。



陸前高田市氷上山の山開き

### Q：今後の目標を教えてください

クレアに着任して数か月のため、これからもっとPCとして頑張りたいと思います。その後は、日本に住み続けて人の力になれる仕事をしたいです。そのために、漢字検定・ビジネス日本語能力テスト (BJT) の勉強をし、日本語を磨きたいです。さらに、スキルアップのために大学院に進学したり、より多くの外国人を支援できる仕事をしたり…できれば様々なことに挑戦してみたいと思います。

### プロフィール



**Youki Wiens**  
(ユウキ・ウインズ)  
元 CIR (福島県)  
任用期間：2018年～2022年  
出身国：カナダ  
所属：交流親善課

### Q：JET プログラム参加時の業務は？

最初の2年間は福島県国際交流協会に勤務し、外国人住民のサポートや英会話および異文化交流のイベント、講演を実施してきました。その後、配属先が変更され、

福島県国際課では、県の国際関係の業務を行いました。主に原発事故、復興の取り組みなどに関する翻訳および通訳に従事しましたが、それに加えて「Fukushima Today」という情報発信事業を担当し、海外に向けて福島県の魅力を発信してきました。

### Q：JET プログラムで印象に残っていることは？

2021年に行われたニューヨーク事務所主催のオンラインパネルディスカッション「3.11から現在、そして未来へ～映像で振り返る東北10年～」に参加したことが印象的でした。福島県を代表しパネリストとして震災復興の取り組みを発表しました。オンラインで行いましたが、海外の方々に福島の現状を発信できる貴重な機会になりました。また、風評被害の払拭に向けて価値がある経験だと思いました。

### Q：日本で過ごして感じたことは？

JET プログラムを通して、日本の地方の人々と異文化交流し、その魅力を感じることができました。福島県民と積極的にコミュニケーションを取りつつ、お互いを理解し合えて、共感できる場所はたくさんあると気づきました。皆さんは私を温かく受け入れてくださり、そこからお互いの絆が深まりました。現在、福島県は私の第二の故郷と呼べる場所だと思っています。



福島県のイチゴはとても甘くて美味しいです！

### Q：現在の業務は？

海外自治体幹部交流セミナー（ニューヨークセミナー・シドニーセミナー）や姉妹都市関係の新規提携などを担当しています。また、地域間国際交流事業の一つである「日仏自治体交流会議」の運営に関わっているため、2022年10月にフランスのエクスアンプロヴァンス市を訪問し、会議でフランス語のサポートを行いました。

### Q：今後の目標を教えてください

クレアで働き始めてから数か月経ちますが、とてもやりがいを感じています。英語、日本語、フランス語3か国語を使う仕事は中々経験できないと思いますので、充実した毎日を過ごしています。今後はPCとして新たな一歩を踏み出たく、日本でのキャリアアップにつなげていきたいです。この経験を将来のキャリアに活かし日本で挑戦し続けたいです。